

【Hirosaki Vital Note　No.6】

街の人々が集う、大人のための 110 番のお店｜Pub　Grandpa 代表　中松久二(ひさつぐ)さん

経歴:弘前に来て 36 年、Pub Grandpa 代表

弘前市で活動する“人”をテーマに、その想いとともに取り組みを発信する連載「Hirosaki Vital Note」。今回の取材では、**Pub Grandpa 代表　中松久二さん**にお話を伺いました。

Pub Grandpa は、弘前市の中心街、土手町の一角に佇む一軒のバー。USJ の「ホッグズ・ヘッド・パブ」を思わせる、重厚で温かみのある店内。このマスター自らが手を加えて作り上げたこのお店は、2017 年にオープンし、今年で 8 年目を迎える。

東京から弘前へ、そして開業へ

―― **マスターが弘前に来たのはいつ頃ですか？**

中松さん:「弘前に来たのは 36 年前ですね。東京から来た自分にとっては、むしろ“お上りさん”のような気分でした。」

―― **なぜ弘前でバーを開くことを決めたのですか？**

中松さん:「仕事をきっかけに弘前に移住してきました。弘前公園を中心に据えた街のつくりに魅力を感じ、この土手町商店街の中心でバーを作ろうと決めたんです。」



店内の雰囲気は、USJ の「ホッグズ・ヘッド・パブ」にインスパイアされたもの。実際に現地に足を運び、写真を撮り作り上げた。「自分で塗ったり削ったりしながら、こだわり抜いた空間です」と語るマスターの目には、店への愛情があふれていた。

昼は野球観戦、夜は大人のための癒しの場

―― 昼のランチ営業をやめた理由は？

中松さん:「今年からランチ営業はやめました。その理由は…162 試合すべて、大谷翔平の試合を観るためです！」(笑)

―― それは本気ですか？

中松さん:「冗談半分(50-50)ですが(笑)、今年の1月よりランチ営業を終了しました。きっかけは、土手町商店街にある中三百貨店が閉店したことです。やはり、お客さんの数はぐっと減りました。そこで、営業時間を見直し、より良いサービスを提供するために決断しました。その結果、夜の営業に専念できるようになりました。」

店では、ウイスキーやビールの種類も豊富で、生ビールはなんと 9 種類を揃えている。クラフトビールの取り扱いもあり、観光客にも人気だ。さらに、お酒と相性抜群の「バー専用チョコレート」も提供していて、ウイスキーとのマリアージュを楽しめる。

こだわりは「こだわらないこと」

―― お店のこだわりはありますか？

中松さん:「こだわりはない男なんですよ。」

―― でも、実際には店内の雰囲気も含めて、かなりこだわっているように見えますが？(笑)

中松さん:「そうですね(笑)。細部には気を配っていますが、一番大事なのは、自分が楽しむこと。その延長線上に、お客様が楽しんでくれる場があると思っています。」

カウンターには一人で訪れる客も多い。観光客や出張の人々、常連客がふらりと訪れ、自然と会話が生まれる。「自分は口下手だから」と謙遜するが、店の温かい雰囲気が、誰もがリラックスできる空間を作っている。

「大人 110 番」のお店

―― **お客様とのエピソードで印象的なものはありますか？**

中松さん:「ここは“大人 110 番”のような場所なんです。かつて、すごい深刻な表情でお店に来てお酒を飲んでいたお客様がいたんです。その日は、すごくお酒に酔っていて家まで送っていったのでよく覚えていました。その後、しばらくしてそのお客様が来店してくれて、教師になったことを報告してくれました。当時は悩んでいたことを聞き、数年後に感謝の言葉をもらった時は、本当に嬉しかったですね。」

　結婚を考えるカップルが背中を押してもらう場にもなれば、仕事の人脈を広げるきっかけの場にもなる。

中松さん:「背中を押したカップルが結婚して、お礼にウイスキーを持って報告に来てくれたこともあるんですよ。」



未来への展望

―― **今後、お店をどうしていきたいですか？**

中松さん:「昔は、街の一角をテーマパークのようにしたいと思っていたんです。土手町の空き地を活用し、人が歩きたくなる通りを作る。イタリアの路地のように、お金を使わずとも楽しく散策できる場所を作りたかった。でも、60 歳を過ぎたら、気力が少し薄れてきました（笑）今は、毎日を楽しく過ごしています」

―― **それでは、今の目標は？**

中松さん:「今はこの店でのんびり過ごしながら、野球を観て、大谷翔平を応援するのが楽しみです。悩みがある人も、悩みがない人も、ここに来て気分転換してくれたら、それが一番です」

とはいえ、店はこれからも変わらず続いていく。夜遅くまで開いているこのバーは、大人のための癒しの場として、今日も誰かを迎え入れている。そう語るマスターの言葉には、店への想いと、人への温かさが詰まっていた。

取材を終えて

取材を通して、中松さんとお話ししていると、私自身が元気になっていることに気づきました。それほどまでに、人を惹きつける魅力を持った方です。

取材後のエピソードになりますが、ある日、偶然友人から「落ち込んでいる」と連絡がありました。「Pub Grandpa に行くといいよ」と伝えたところ、実際に足を運んでくれました。中松さん、そしてお店の常連さんたちと話をするうちに、気持ちが前向きになったようで、翌日「いいお店を紹介してくれてありがとう！沢山元気をもらった！」と連絡をくれました。

精神的な健康を保つためには、自分だけの居場所や安心できる環境が必要です（Maslow, 1943; Baumeister & Leary, 1995）。ストレス社会の中で、こうした空間が果たす役割は非常に大きいと感じます。お酒を片手にリラックスし、誰かと会話を交わすことで、心の負担が少し軽くなることもあるのではないでしょうか。その友人はすっかり Pub Grandpa の魅力にハマってしまいました。自分だけのお気に入りの空間、リフレッシュできるコミュニティ。「明日からまた頑張ろう」

と思える、そんな場所があることの大切さを改めて感じました。ぜひ、一度足を運んでみてはいかがでしょうか。



⚲ Pub Grandpa　青森県弘前市土手町 66-12

公式サイト　https://www.instagram.com/pubgrandpa/

撮影・構成・執筆/中野皐月